

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 06343419
PUBLICATION DATE : 20-12-94

APPLICATION DATE : 07-06-93
APPLICATION NUMBER : 05164024

APPLICANT : DR MAINTSU:KK;

INVENTOR : MATSUSHIMA MASAKAZU;

INT.CL. : A23L 1/30

TITLE : ANTIOBESTIC FOOD

ABSTRACT : PURPOSE: To obtain an antiobestic food exerting excellent preventive effect on obesity or weight gain by the synergism of α -cyclodextrin and γ -linolenic acid by compounding a cyclodextrin, γ -linolenic acid and saponin.

CONSTITUTION: This antiobestic food is obtained by compounding 100 pts.wt. of α -cyclodextrin with 0.5-10 pts.wt. of γ -linolenic acid, 0.3-6 pts.wt. of saponin and further optionally 0-5 pts.wt. of chlorophyll, TOTYUUYOU (leaf of Euonymus tricocarpus) extract, lactobacillus sporogenes or one or more than two kinds of active peptides. The antiobestic food is capable of exerting extremely excellent preventive effect on obesity or weight gain by the synergism of α -cyclodextrin and γ -linolenic acid.

COPYRIGHT: (C) JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-343419

(43)公開日 平成6年(1994)12月20日

(51)Int.Cl.⁵

A 2 3 L 1/30

識別記号 庁内整理番号

B

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数2 FD (全4頁)

(21)出願番号 特願平5-164024

(22)出願日 平成5年(1993)6月7日

(71)出願人 593127315

株式会社ドクターマインツ

大阪市天王寺区大道1丁目13番16号

(72)発明者 松島 正和

大阪市天王寺区大道1丁目13番16号 株式
会社ドクターマインツ内

(74)代理人 弁理士 尾関 弘

(54)【発明の名称】 瘦身用食品

(57)【要約】

【目的】 α -サイクロデキストリンと γ -リノレン酸と
を主成分としてなる瘦身用食品に、更に一段と優れた瘦
身作用を有する新しい瘦身用食品を開発すること。

【構成】 α -サイクロデキストリン、 γ -リノレン酸及
びサボニンとを含有せしめること。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 α -サイクロデキストリン、 γ -リノレン酸及びサボニンとを含有して成る瘦身用食品。

【請求項2】 α -サイクロデキストリン100重量部に対して、 γ -リノレン酸が0.5～10重量部及び上記サボニンが0.3～6重量部の割合で含有されて成る請求項1に記載の瘦身用食品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は瘦身用食品に関する。

10

【0002】

【従来の技術】 サイクロデキストリンには α -サイクロデキストリン、 β -サイクロデキストリン並びに γ -サイクロデキストリンの3種の化合物が存在する。これ等サイクロデキストリンは古くから食品用の素材として使用されて来ている。

【0003】 そして最近サイクロデキストリンの1種である α -サイクロデキストリンは、瘦身用食品の素材として使用出来る可能性のあることが発表された。

【0004】 一方 γ -リノレン酸は脂肪代謝作用を有する物質として知られており、健康維持に好適な物質として知られている。

【0005】 また、 α -サイクロデキストリンと γ -リノレン酸とを併用することにより、その相乗作用により著しく優れた肥満乃至体重増加防止効果を発揮することを基本とする瘦身用食品が開発されている(特公昭62-44905号)。

【0006】 本発明者は、従来から瘦身用食品について研究を続け、特に α -サイクロデキストリンと γ -リノレン酸とから成る瘦身用食品について研究を続けて来た。この研究に於いて、これ等上記2種の成分に更に第三成分を添加することにより、更に優れた瘦身用効果が得られるかもしれないとの新しい着想に至った。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】 従って本発明が解決しようとする課題は α -サイクロデキストリンと γ -リノレン酸とを主成分としてなる瘦身用食品に、更に一段と優れた瘦身作用を有する新しい瘦身用食品を開発することである。

【0008】 本発明者は、上記課題を解決するために、更に鋭意研究を続け、各種数多くの食品用添加剤について実験的研究を続け、遂にある特定の成分を更に第三成分として配合するときは、これ等三者の相乗作用によって、著しく瘦身用効果が上昇することを見出した。

【0009】

【課題を解決するための手段】 本発明者の研究に依ると、 α -サイクロデキストリンと γ -リノレン酸に更にサボニンを配合するときは、これ等三者の相乗作用により著しく肥満防止効果が大きくなることが見出された。

【0010】

【発明の構成】 本発明の瘦身用食品は、 α -サイクロデキストリン、 γ -リノレン酸及びサボニンとを、好ましくは上記デキストリン100重量部に対して γ -リノレン酸0.5～50重量部及び白人参0.3～6重量部、特に好ましくはリノレン酸1～10重量部及びサボニン0.5～3.5重量部含有して成るものである。

【0011】 本発明に於いて使用される α -サイクロデキストリンとしては、従来から知られているものがいずれも使用出来る。この α -サイクロデキストリンは、これを単独で使用しても良く、またこれを含有する素材を使用しても良い。

【0012】 本発明に於いて使用される γ -リノレン酸としてもこれを単独で使用しても良く、またこれを含有する成分乃至物質たとえば月見草油等を使用しても良い。

【0013】 本発明に於いて使用するサボニンとしては、従来からサボニンとして知られているものが使用され、通常植物に分布する配糖体の一群でサボニンと総称されているものが含まれる。特に好ましくは大豆サボニンである。

【0014】 本発明に於いては上記3種類の成分を併用するものであって、これ等三者の相乗作用により、著しく優れた肥満防止乃至体重増加防止効果を發揮する。この相乗作用は特に α -サイクロデキストリン100重量部に対し γ -リノレン酸0.5～50重量部特に好ましくは1～40重量部、サボニン0.3～6重量部特に好ましくは0.5～3.5重量部の割合で発揮される。

【0015】 本発明に於いては、更にクロロフィル、杜仲葉エキス、有胞子状乳酸菌、活性ペプチドの一種、又は二種以上を配合する場合には、上記サボニン添加に基づく相乗作用を更に一段と向上せしめることが出来る。

【0016】 クロロフィル自体は良く知られたものであって、葉綠素の1種であり、またビロール化合物の一種である。クロロフィルにはa, b, c, d, e及びパクテリオクロロフィル、パクテリオビリジンがある。本発明では一般にクロロフィルと総称されている上記各化合物の少なくとも1種以上の混合物が有効に使用される。

【0017】 又、更にクロロフィルとしてはクロロフィル蛋白質と称される、クロロフィルと蛋白質が結合したものも使用することが出来る。

【0018】 本発明に於いて使用される杜仲葉エキス、及び有胞子状乳酸菌自体も又良く知られた食品添加物であり、本発明に於いては、これ等従来から使用されて来たものがいずれも使用される。

【0019】 特に本発明に於いてはクロロフィルが上記相乗作用増進に対し効果が大きい。

【0020】 これ等クロロフィル、杜仲葉エキス、及び有胞子状乳酸菌の使用量は α -サイクロデキストリン100重量部に対し、通常0～5好ましくは1～3重量部である。

【0021】本発明に於いては、食品または食品添加材に上記三成分を含有させれば良く、または必要に応じ各種公知の添加材と共に適当な形状、たとえば錠剤、丸剤、顆粒状に成型しても良い。この際の食品添加材としては、各種のものが使用出来、小麦粉、食物繊維素、大豆粉、乳糖、ブドウ糖、澱粉等を具体例として挙げることが出来る。

【0022】以下に実験例と本発明の具体例たる実施例を示す。

【0023】

【実験例】成人で健康な女子（年齢21～25才）15名をパネラーとして下記のパネルテストを行った。即ち

パネラーを5名づつに5群にわけ、下記の組成物を1日3回（朝、昼、晩）0.015g/kgの割合で摂取してもらい、通常の一定の食事を一定量摂取してもらって、60日後の変化を調べた。変化は尻周り、太もも周り、体重、外観の4つの項目について行い、各群の平均値で示した。その評価は組成物摂取前の各項目を基準とし、それより大きくなった場合を+で、また少なくなった場合を-で表した。その結果を表1に示す。但し表1の群6はコントロールである。

【表1】

群	組成物	体 重 (%)	外 観	尻周り (%)	太もも周り (%)
1	1	-2.10	若干しまった感じ	-2.4	-2.2
2	2	-0.1	変化なし	-0.1	-0.1
3	3	-3.3	しまった感じが はっきりと認め られた	-3.7	-3.0
4	4	-3.2	しまった感じが はっきりと認め られた	-3.7	-3.4
5	5	-2.6	同上	-3.0	-3.0
6	-	0	変化なし	0	0

【0025】

組成物1

α -サイクロデキストリンと	
アーリノレン酸との混合物（10:1重量比）	100 重量部
小麦粉	500 重量部

【0026】

組成物2

上記混合物	0 重量部
小麦粉	500 重量部
サポニン	4.0 重量

部

【0027】

組成物3

上記混合物	96.0 重量部
サポニン	4.0 重量

部

【0028】

組成物4

上記混合物	98.0 重量部
サポニン	2.0 重量

部

【0029】

(4)

特開平6-343419

5

6

組成物 5

上記混合物 99.5 重量部

サボニン 0.5 重量

部

小麦粉 500 重量部